



多種多様な文書資料を検索・閲覧できる NHK放送文化アーカイブサイトの開発

なにができるの？

NII 連想情報学研究開発センターでは、NHK 設立当初から作成・保存されてきた各種アーカイブ資料を一堂に検索・閲覧できる「NHK 放送文化アーカイブサイト」を NHK 放送文化研究所と共同開発しています。本サイトの特徴として、NHK 年鑑（当初はラジオ年鑑）や月報、年報、世論調査などの資料の他に、放送界で活躍された著名人に対するインタビューを収録しており、それらを脚注表示機能を持った閲覧環境で読むことができます。放送文化の調査・研究に必要な機能要件を様々な角度から検証するとともに、一般公開をめざして開発しています。

各種アーカイブ資料を様々な側面から検索できる

放送文化アーカイブは、NHK放送文化研究所の研究成果（論文や調査データなど）と、番組制作や放送に関する一次資料を統合したアーカイブであり、その一部がアーカイブとも連携し、各種資料を効率的・創造的に検索・閲覧できるサイトです。

放送文化アーカイブは、NHK放送文化研究所の研究成果（論文や調査データなど）と、番組制作や放送に関する一次資料を統合したアーカイブであり、その一部がアーカイブとも連携し、各種資料を効率的・創造的に検索・閲覧できるサイトです。

次の5つの方法で検索できます

「まとめて探す」
「年表から探す」
「番組から探す」
「証言から探す」
「資料庫から探す」

「まとめて探す」
連想検索技術を使ってすべての資料を横断検索します

放送文化アーカイブ

放送文化アーカイブは、NHK放送文化研究所の研究成果（論文や調査データなど）と、番組制作や放送に関する一次資料を統合したアーカイブであり、その一部がアーカイブとも連携し、各種資料を効率的・創造的に検索・閲覧できるサイトです。

放送文化アーカイブ

放送文化アーカイブは、NHK放送文化研究所の研究成果（論文や調査データなど）と、番組制作や放送に関する一次資料を統合したアーカイブであり、その一部がアーカイブとも連携し、各種資料を効率的・創造的に検索・閲覧できるサイトです。

放送文化アーカイブ

放送文化アーカイブは、NHK放送文化研究所の研究成果（論文や調査データなど）と、番組制作や放送に関する一次資料を統合したアーカイブであり、その一部がアーカイブとも連携し、各種資料を効率的・創造的に検索・閲覧できるサイトです。

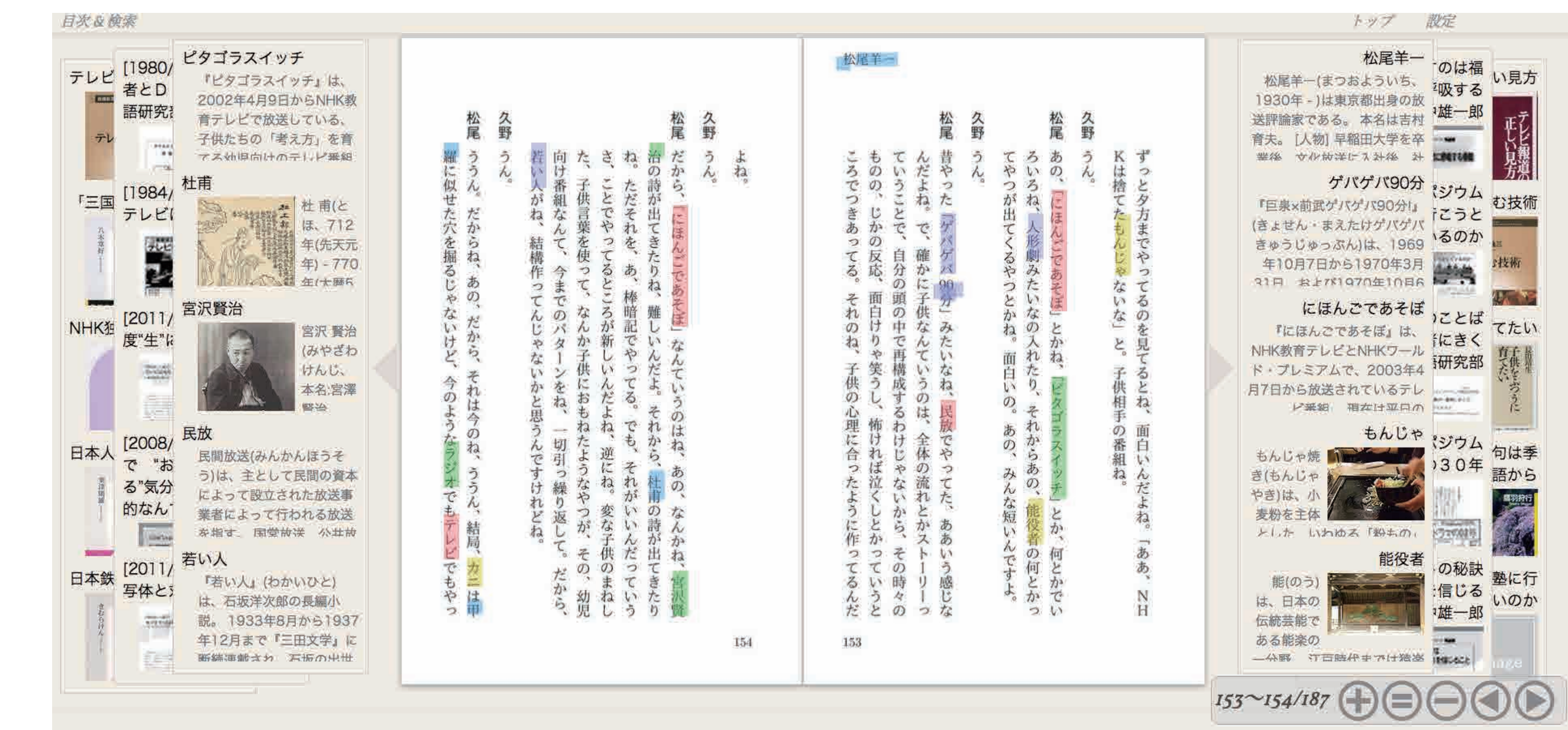
放送文化アーカイブ

放送文化アーカイブは、NHK放送文化研究所の研究成果（論文や調査データなど）と、番組制作や放送に関する一次資料を統合したアーカイブであり、その一部がアーカイブとも連携し、各種資料を効率的・創造的に検索・閲覧できるサイトです。

放送文化アーカイブ

放送文化アーカイブは、NHK放送文化研究所の研究成果（論文や調査データなど）と、番組制作や放送に関する一次資料を統合したアーカイブであり、その一部がアーカイブとも連携し、各種資料を効率的・創造的に検索・閲覧できるサイトです。

自動脚注表示機能付き閲覧環境



主なアーカイブ	コンテンツ数	ページ数
NHK 年鑑	78 年分 (1931 年～)	約 50,000
放送研究と調査	約 7,600 本	約 51,000
NHK 文研年報	約 620 本	約 15,600
20 世紀放送史	上下巻	約 1,280
NHK 経営関係資料	約 140 本	約 4,000
放送人の証言（放送人の会）	約 140 人	約 19,500

連絡先：NII 国立情報学研究所 連想情報学研究開発センター
阿辺川 武 abekawa@nii.ac.jp
tel : 03-4212-2700



NHK放送文化研究所（メディア研究部）
〒105-6216 東京都港区愛宕2-5-1 愛宕MORIタワー16F
米倉 律 tel : 03-5400-6828



東京文化財研究所 刊行物アーカイブ公開システム 試行版

研究の内容

NII連想情報学研究開発センターでは、東京文化財研究所と共同で当研究所が刊行してきた学術論文誌などをデジタルアーカイブし、より多くの研究者が活用できる公開システムを研究しています。このシステムでは、研究者だけでなく文化財に興味関心の高い一般ユーザにも内容が容易に理解できるサービスを目指しています。論文アーカイブの閲覧には、NII連想情報学研究開発センターが開発を進めている電子論文閲覧システム「Sidenoter(サイドノーター)」を利用、閲覧中のページと関連する情報を動的に計算して表示したり、本文中の索引語を自動生成することができます。デジタル化された論文ならではの閲覧方法を提供します。

システムの特徴



自動注釈付与機能で
多様な情報源を参照
できます



索引を自動的に生成
章立てや論文ごとに索引語の
出現数を視覚的に把握できます

目次をいつでも確認できるほか
本文全文を検索することができます

地域デジタルアーカイブの活用促進を促す 街の記憶縦覧システム



研究の前提

東日本大震災「3・11」によって私たちは、地域の記憶をいかに記録していくべきか、その記録をどのように活用し、またどのように次世代に伝えていくべきかという課題に直面しています。NII連想情報学研究開発センターでは、こうした課題に取り組む、さまざまな地域・自治体などと共同で実証的な研究を進めています。

研究の目的

地域の歴史や歩みを知るうえで、古地図や古写真は大変有意義な資料です。街の変遷を振り返ることができるほか、自然・風俗・習慣といったその地域ならではの姿が写っています。こうした資料に位置情報や時間情報などを付けて整理できるデータベースシステムを構築、地域ごとの課題・要請に合ったさまざまな活用サービスの展開につなげていきます。

システムの特徴

- ① Windows 8 + Internet Explorer 10 + JavaScript + HTML5 を最大限に活用することで特別なシステムを必要としないビューアを実現！



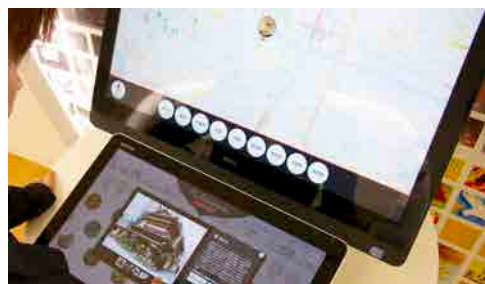
- ② タッチパネルによる操作性を重視し、さまざまな閲覧機能を用意することで子どもからご年配まで幅広いユーザ層が活用できるサービスを提供



- ③ さまざまな地域情報を総合的に整理・登録できるバックエンド(データベース)を合わせて開発
古地図・古写真ビューアだけでなく、地域情報活用システム開発に応用！



地域情報をストックできるバックエンドシステムを開発



オリジナル散歩地図作成システムとして応用展開